２０２７年度日本医科大学武蔵小杉病院

麻酔科専門研修プログラム



1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムでは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成します。

本プログラムの第一の特色は、急性期の治療に参加する機会が多い点です。本プログラムの基幹研修病院である日本医科大学武蔵小杉病院は、救命救急センター、集中治療室、災害拠点病院といった急性期の治療施設が充実した診療を行っており、緊急手術や重症症例の麻酔を担当する機会に恵まれています。緊急手術や重症症例の麻酔は型どおりに進めることが困難であることが多く、ときに瞬時の判断を迫られ、その経験は麻酔科医師として成長する糧となる。本プログラムではそうした緊急手術や重症症例の麻酔を上級医の確実な指導のもとに担当することができます。

第二に、当院は日本医科大学付属病院（文京区千駄木）と連携しており、希望があれば適切な時期に大学院に進学することができます。大学院在学中は付属病院での研修が主になります。研究内容は日本医科大学麻酔科学教室の研究テーマに準じますが、臨床と研究を両立できるように大学院生活をサポートします。

第三に、急性期以外の疼痛・緩和医療を学ぶ機会に恵まれています。当院では、麻酔科医師が中心となり、呼吸器内科医師、腫瘍内科医師、精神科医師、看護師、薬剤師、そのほかメディカルスタッフとともに緩和ケア診療を行っています。希望により緩和ケアのローテーションができ、癌性疼痛および慢性疼痛の診療を経験することができます。

第四に、当院は周産期母子医療センターに認定されており、小児麻酔や産科麻酔を多く学ぶことができます。また、無痛分娩は麻酔科が介入しており、より深く産科麻酔を学ぶこともできます。小児麻酔を集中的に修練するために神奈川県立こども医療センター（神奈川県横浜市）などで研修することができます。

最後に、より心臓麻酔を学ぶことができる国立研究開発法人 国立循環器病研究センター(以下、国立循環器病研究センター)（大阪府吹田市）や公益財団法人 日本心臓血圧研究振興会 附属榊原記念病院(以下、榊原記念病院)（東京都府中市）へのローテーションが可能です。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の初年度は、原則として日本医科大学武蔵小杉病院で研修を行います。
- ４年間のうち、一定期間（６ヶ月以上）は日本医科大学付属病院（東京都文京区)、日本医科大学北総病院（千葉県印西市）もしくは日本医科大学多摩永山病院（東京都多摩市）をローテートします。
- 集中治療系の研修は集中治療専門医研修施設である武蔵小杉病院救急救命センターおよび集中治療室、日本医科大学付属病院外科系集中治療科へ一定期間（３ヶ月以上）ローテートします。

- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築します。
- すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とし、専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮します。
- 日本医科大学大学院疼痛制御麻酔科学と連携し、研修期間中に大学院に進学することも可能です。
- 地域医療の維持のため、一定期間（３ヶ月以上）連携している地域医療支援病院にて研修を行います。研修連携施設は適宜希望に応じた形で決定します。

研修プログラムのコースについて以下の研修例を示します。標準コース（A）を基本とし、採用人数や希望により適宜それ以外のコースで研修するほか、周囲状況の変化に応じてプログラムの修正・変更が行われます。コースの修正・変更は都度専攻医に情報開示します。

研修コース一覧（例）

	A：標準コース	B：大学院進学コース	C:地域支援コース	D:アドバンストコース
初年度 前期	武蔵小杉病院（手術麻酔）	武蔵小杉病院（手術麻酔）	武蔵小杉病院（手術麻酔）	武蔵小杉病院（手術麻酔）
初年度 後期	武蔵小杉病院（手術麻酔）	武蔵小杉病院（手術麻酔）	武蔵小杉病院（手術麻酔）	武蔵小杉病院（手術麻酔）
２年度 前期	武蔵小杉病院（手術麻酔）	連携小児病院（手術麻酔）	武蔵小杉病院（手術麻酔）	連携小児病院（手術麻酔）
２年度 後期	連携小児病院（手術麻酔）	地域医療支援病院（手術麻酔）	連携小児病院（手術麻酔）	付属病院・永山病院・北総病院（手術麻酔、ICU）
３年度 前期	付属病院・永山病院・北総病院（手術麻酔、ICU）	付属病院（大学院、手術麻酔、ICU）	付属病院・永山病院・北総病院（手術麻酔、ICU）	武蔵小杉病院（手術麻酔、ペインクリニック、緩和、無痛分娩）
３年度 後期	武蔵小杉病院（手術麻酔、ペインクリニック、緩和、無痛分娩）	付属病院（大学院、手術麻酔、ICU）	武蔵小杉病院（手術麻酔、ペインクリニック、緩和、無痛分娩）	地域医療支援病院（手術麻酔）
４年度 前期	武蔵小杉病院（手術麻酔、ペインクリニック、緩和、無痛分娩）	付属病院（大学院、手術麻酔、ICU）	地域医療支援病院①（手術麻酔など）	心臓専門施設（心臓麻酔）
４年度 後期	地域医療支援病院（手術麻酔など）	付属病院（大学院、手術麻酔、ICU）	地域医療支援病院②（手術麻酔など）	心臓専門施設（心臓麻酔）

※周囲状況に応じてコースの修正・変更が行われます。

週間予定表

武蔵小杉病院での勤務の場合（一例）

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	宿直明け	手術室	手術室（月１回程度）	休み
午後	手術室	術前診察	手術室	休み	手術室	休み	休み
当直			当直				

＜専門研修スケジュール補足事項＞

・月～金の毎朝8時までに麻酔科管理症例のカンファランスを行っています。カンファランスには麻酔科専門医/指導医、麻酔科専攻医、麻酔科研修医、手術室看護師、医学部学生が参加し、症例について情報共有し、麻酔計画を確認します。

・安全に麻酔管理を行うためのグループワーキングと全体でのシミュレーション(悪性高熱症、アナフィラキシーショック、局所麻酔薬中毒、大量出血、気道確保困難症例、緊急帝王切開術など)を適宜行います。グループワーキングのグループ長は専攻医とし、指導医の指導のもとアンケート、資料作成、シミュレーション準備し、必要に応じて全体学習の内容を順次改定しています。

・毎月１回医局会を開催します。抄読会は専攻医が発表を担当する（最低１回/年)。文献の選択は指導医が行い、各テーマに沿ったレビューや研究に関する論文を紹介し新しい知見をアップデートします。

・必要に応じて専攻医を対象に人体模型を用いて硬膜外穿刺、脊髄くも膜下穿刺、超音波エコーガイド下中心静脈穿刺、超音波ガイド下末梢神経ブロックのハンズオン講習会を行います。そのほか専攻医の希望に応じたテーマでの勉強会を開催します。

・定期的に各診療科と症例カンファランスを行う。特に重症症例や特殊な疾患の手術症例で行う。カンファランスには麻酔科医師のほか、各診療科の外科医、内科医、手術室や病棟看護師、臨床工学技士が参加して様々な意見交換や確認を行います。

・各種学術集会に参加する機会を設けます。とくに専攻医1-2年目では、日本麻酔科学会関東甲信越地方会での症例報告を目標とし、指導医の指導のもと発表の準備を行い

ます。各種年次学術集会（日本麻酔科学会、日本臨床麻酔学会など）への見学・参加を励行しています。

・日本医科大学武蔵小杉病院図書館は、平日の8:30-17:00使用可能であり、豊富な書籍、雑誌を閲覧することが可能です。また、病院内は文献検索に関するインターネット環境が整備されており、時間外でも文献検索が可能です。さらに日本医科大学付属病院にある日本医科大学図書館は、平日は7:30-23:00（火曜日のみ12:00-23:00)、日・祝日は13:00-23:00使用可能であり、より豊富な書籍、雑誌を閲覧することが可能です。

・院内の医療安全講習会(2回/年)、感染対策講習会(4回/年)に参加し、医療倫理、医療安全、院内感染対策に関する知識を習得します。

・緩和ケア講習会に参加し、緩和ケアに関する知識を習得します。

4. 研修施設の指導体制

①　専門研修基幹施設

日本医科大学武蔵小杉病院　（神奈川県川崎市）

麻酔科認定病院番号：276
臨床研修病院施設番号：030275
研修プログラム統括責任者：杉田　慎二
専門研修指導医：杉田　慎二（麻酔、集中治療）
川瀬　創（麻酔、緩和ケア）
今井　裕隆（麻酔、集中治療）
細井　章広（麻酔、産科麻酔（無痛分娩））
山岡　卓司（麻酔、ペインクリニック、小児麻酔）
相澤　武明（麻酔、神経ブロック）

特徴：2021年9月に新病院になった大学病院で、周産期母子医療センター、救命救急センター、災害拠点病院です。重症症例を含めた幅広い症例を経験することが可能です。小児症例、帝王切開術症例を豊富に経験することが可能です。無痛分娩を行っており、産科麻酔をより学ぶことができます。ペインクリニックや緩和ケアの外来もあり、手術室でインターベンショナル治療を行える環境となっています。
※ ペインクリニックは2026年5月現在、院内対応のみとなっています。
麻酔科管理症例数（2025年度）　3,711症例

	症例数

小児（6歳未満）の麻酔	364症例
帝王切開術の麻酔	440症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	69症例
胸部外科手術の麻酔	96 症例
脳神経外科手術の麻酔	104症例

②　専門研修連携施設A

日本医科大学付属病院　（東京都文京区）



麻酔科認定病院番号：1163

臨床研修病院施設番号：030183

研修プログラム統括責任者：石川　真士（麻酔一般，心臓麻酔，無痛分娩）

専門研修指導医：

間瀬　大司（麻酔，集中治療，産科麻酔）
源田　雄紀（麻酔，集中治療）
岩崎　雅江（麻酔，ペインクリニック，緩和ケア）
稲垣　喜三（麻酔，ペインクリニック，漢方）
並里　大（麻酔）
山本　真記子（麻酔，心臓麻酔，基礎研究）
水野　友喜（麻酔，心臓麻酔）
富張　雅宏（心臓麻酔）
右田　妹亜（心臓麻酔，無痛分娩）
金子　美穂（麻酔，無痛分娩）
井野　佑佳（麻酔，緩和ケア，基礎研究）　他

特徴：麻酔一般のほか、外科系集中治療室へのローテートを必須としており、術中の麻酔管理だけではなく、術後管理を含めた周術期管理を学んで頂けます。その他に

も，緩和ケア、ペインクリニック外来のローテートも可能です。緊急手術症例，重症症例を指導医のもと数多く経験することが可能です。女性医師のキャリア支援にも力を入れています。
麻酔科管理症例数（2025年度） 8,044症例

日本医科大学北総病院（千葉県印西市）



麻酔科認定病院番号：690
臨床研修病院施設番号：030164

研修プログラム統括責任者：金　徹
専門研修指導医：　金　徹　　（麻酔一般、ペインクリニック、緩和ケア）
神谷一郎　（麻酔一般、ペインクリニック）
伊藤公亮　（麻酔一般、ペインクリニック）
中室貴代　（麻酔一般、無痛分娩）
宮崎　有　（麻酔一般、ペインクリニック、緩和ケア）
山﨑陽祐　（麻酔一般、ペインクリニック）

特徴：当院は、地域医療を担う側面がある一方、ドクターヘリを擁する広域をカバーする救急救命センターがあり、多発外傷など緊急度の高いハイリスク症例の麻酔を経験することができる病院です。がん診療連携拠点病院でもあり、悪性腫瘍に対する手術の麻酔を経験し、緩和ケアを勉強することができます。希望があれば日本医科大学付属病院にて外科系集中治療の研修が可能で、集中治療・ペインクリニック・緩和ケアの専門医あるいは認定医の資格を取ることが可能です。ここは、目標に向かって自由に学ぶことのできる開放的な雰囲気の医局と自負しています。

麻酔科管理症例数（2024年度） 3847症例

日本医科大学多摩永山病院



麻酔科認定病院番号：376

研修プログラム統括責任者：杖下隆哉

専門研修指導医：杖下隆哉（麻酔一般，緩和ケア）
水野幸一（麻酔一般，ペインクリニック）
杼窪寛（麻酔一般）
米内大輔（麻酔一般）
杉田彩子（麻酔一般，産科麻酔）
ほか4名

特徴：乳児から超高齢者に至るまでの幅広い患者層の手術，地域の病院から紹介となる重症の合併症をもつ患者の高侵襲手術，３次救急や産科救急など一刻を争う緊迫した緊急手術など様々なジャンルの手術が行われています。また緩和ケア，ペインクリニック，無痛分娩も積極的に行っています。

医療法人社団明芳会 横浜旭中央総合病院（以下、横浜旭中央総合病院）（神奈川県横浜市）



麻酔科認定病院番号：1163

臨床研修病院施設番号：030301

研修実施責任者：稲木　敏一郎

専門研修指導医：稲木　敏一郎（麻酔一般）
和田　美紀　（麻酔一般）

特徴：外科（消化器、呼吸器、乳腺、血管外科）、整形外科、脳神経外科、形成外科手術が多い。救急車受け入れ数は年間10000台を超え高次機能病院を凌駕し、積極的に救急患者を受け入れて、緊急手術や重症症例の麻酔を多く経験できます。

社会医療法人　ジャパンメディカルアライアンス　海老名総合病院（以下、海老名総合病院）　（神奈川県海老名市）



麻酔科認定病院番号：730
機構プログラム統括責任者：金　正
専門研修指導医：金　正　　(臨床麻酔、産科麻酔)
小泉　有美馨(臨床麻酔、呼吸器外科麻酔)
山梨　義高　(臨床麻酔、循環器外科麻酔)
柴田　淳史　(臨床麻酔、ペイン関連)
特徴：神奈川県の中央部海老名市にある 479 床の 3 次救急に対応した民間病院です。2023 年 6 月に新病棟がオープンし手術室 11 室、サテライト 3 室の 14 室で稼働しています。診療科は救急救命センター、心外、脳外、呼吸器外科、マタニティーセンター等、ほぼ全ての診療科があり色々な症例を経験することができます。現在専攻医は 2 名おり日々精進しております。麻酔科は 6 名の常勤医に加えて 6 つの大学病院、2 つの関連病院から毎日 10 名前後の非常勤医が来てくれていていろいろな手技を習得できます。科内の雰囲気はフレンドリーでアットホームです。

日本私立学校振興・共済事業団東京臨海病院（以下、東京臨海病院）（東京都江戸川区）



麻酔科認定病院番号：1005

臨床研修病院施設番号：031040

研修プログラム統括責任者：赤田信二

専門研修指導医：赤田信二（麻酔、集中治療）

佐藤千代（ペインクリニック、緩和）

竹田寛恵（ペインクリニック、緩和）

中川真志（麻酔、ペインクリニック）

特徴：災害拠点病院であるため、複数手術科が存在し，重症症例を含めた症例を経験することが可能です。ペインクリニック、緩和医療も行っており、麻酔医関連業務に関しても学ぶことが可能です。

麻酔科管理症例数 2449症例

三井記念病院（東京都千代田区）



麻酔科認定病院番号：68

研修プログラム統括責任者：横塚基

専門研修指導医：横塚基　（麻酔，心臓麻酔）

大野長良　（麻酔，心臓麻酔）

竹内純平　（麻酔，心臓麻酔）

大槻達道　（麻酔，心臓麻酔）

佐藤瑞穂　（麻酔，蘇生）

今井恵理哉（麻酔，集中治療）

田中真佑美（麻酔）

松永渉　（麻酔，心臓麻酔）

山本麻里　（麻酔）

小平亜美　（麻酔）

滑川元希　（麻酔）

仲西里奈子（麻酔）

上條苑子　（麻酔）
小嶋　太郎（麻酔）

特徴：心疾患・呼吸器疾患・透析等の重症併存疾患合併患者を中心に幅広い症例を経験できます。
麻酔科管理症例数 4770 症例

神奈川県立こども医療センター　（神奈川県横浜市）



麻酔科認定病院番号：88
研修実施責任者：中村　信人
専門研修指導医：中村　信人（小児麻酔）
三浦　倫一（小児麻酔）
蜂屋　好子（小児麻酔）
山口　恭子（小児麻酔）
青木　真理子（小児麻酔）
小林　憲弥　（小児麻酔）
中森　亜葵（小児麻酔）
特徴：小児に特化した専門病院であり、最先端の治療を行っています。あらゆる小児手術の麻酔を豊富に経験することが可能です。また、小児の心臓麻酔、胸部外科麻酔、脳神経外科麻酔、産科麻酔があり、サブスペシャリティーの修練も積むことも可能です。
麻酔科管理症例数 3212 症例

国立研究開発法人　国立成育医療研究センター(東京都世田谷区)



麻酔科認定病院番号：87

研修実施責任者：糟谷　周吾

専門研修指導医：糟谷　周吾（麻酔）
大原　玲子（麻酔、周産期）
馬場　千晶（麻酔）
佐藤　正規（麻酔、周産期）
蜷川　純（麻酔、心臓血管）
山下　陽子（麻酔、周産期）
行正　翔（麻酔）
古田　真知子（麻酔）
浦中　誠（麻酔、心臓血管）
橋谷　舞（麻酔、心臓血管）
伊集院　亜梨紗（麻酔、周産期）
兒玉　洋介（麻酔）
久米　澄子（麻酔、周産期）
岩田　裕貴（麻酔）
岩田　愛理（麻酔、周産期）

特徴：国内最大の小児・周産期・産科・母性医療の専門施設で、小児（手術・検査等）・周産期の麻酔管理（帝王切開・無痛分娩・EXIT 等）について、指導者の下で経験・習得できます。国内最大の小児集中治療施設で、救急・重症疾患の集中治療管理を経験・習得できます。小児の移植（肝臓・腎臓・小腸・心臓）の周術期管理を経験できます。先天性心疾患を有する麻酔管理（手術・カテーテル検査）を経験できます。小児がんセンター、緩和ケア科があり、小児緩和医療を経験できます。臨床研究センターによる臨床研究サポート体制があります。

麻酔科管理症例　約 6600 症例、帝王切開約 800 症例、無痛分娩約 1200 例

埼玉県立小児医療センター



麻酔科認定病院番号：399

研修実施責任者：蔵谷　紀文

専門研修指導医：蔵谷　紀文　（麻酔・小児麻酔）
濱屋　和泉　（麻酔・小児心臓麻酔）
古賀　洋安　（麻酔・小児麻酔）
伊佐田　哲朗　（麻酔・小児麻酔）
小嶋　大樹　（麻酔・小児麻酔）
大橋　智　（麻酔・小児麻酔）
駒崎　真矢　（麻酔・小児麻酔）
高田　美沙　（麻酔・小児麻酔）
坂口　雄一　（麻酔・小児麻酔）
藤本　由貴　（麻酔・小児麻酔）
鴻池　利枝　（麻酔・小児麻酔）
専門医：影山　翔一　（麻酔・小児麻酔）

特徴：研修者の到達目標に応じて、小児麻酔・周術期管理の研修が可能。小児鏡視下手術や新生児手術、心血管手術のハイボリュームセンターです。小児がん拠点病院であり、総合周産期母子医療センター、小児救命救急センター、移植センター（肝移植）が併設されています。小児集中治療の研修も可能です(PICU14, HCU20, NICU30, GCU48)。さいたま新都心駅と北与野駅からペデストリアンデッキで直接アクセス可能です。

麻酔科管理症例　3908例（2025年度）

国立研究開発法人　国立循環器病研究センター(以下、国立循環器病センター)
（大阪府吹田市）



麻酔科病院認定番号：168
研修実施責任者：前田琢磨
専門研修指導医：金澤裕子
前田琢磨
南　公人
下川　亮
月永　晶人
森永　將裕
三浦　真之介
特徴：センター手術室は 12 室であり、そのうち 4 室はハイブリッド手術室です。ロボット手術専用室や COVID 対応陰圧手術室も設置しています。特に冬は緊急大動脈解離手術が多くなります。劇症型心筋炎や心筋症増悪に対する左室補助装置装着手術も多いです。心臓移植はおよそ月 1 回程度あります。麻酔科医はスタッフ 8 名レジデント 18 名で対応しています。休日を含めた毎日、麻酔科医 2 名が当直、オンコール 1 名ですべての緊急症に対応しています。
2025 年麻酔科管理全症例数　　2494 症例

公益財団法人　日本心臓血圧研究振興会附属榊原記念病院（以下、榊原記念病院）（東京都府中市）



麻酔科認定病院番号：1441
研修実施責任者：清水　淳
専門研修指導医：清水　淳（麻酔一般、心臓麻酔）

一瀬　麻紀　（麻酔一般、救急医療）
古市　結富子　（麻酔一般、心臓麻酔、集中治療）

特徴：急性期医療を中心とした、あらゆる年齢層を対象とした循環器疾患の専門施設です。 小児先天性心疾患を含む心臓血管手術全般および最先端のカテーテル治療の麻酔管理、術後管理を中心とした集中治療管理を豊富に経験することができます。また他科・他職種間の垣根が低く、カンファランスや実地臨床を通じて幅広い知識を得ることができます。 地域医療支援病院です。

社会医療法人社団十全会　心臓病センター榊原病院



麻酔科認定病院番号：1142

研修実施責任者：大西佳彦

専門研修指導医：大西佳彦（心臓血管麻酔）
石井智子（心臓血管麻酔）

特徴： 心臓外科領域の麻酔を主に習得でき、ＴＡＶＩ、ＭＩＣＳも多く学べます。

医療法人財団明理会　東戸塚記念病院（以下、東戸塚記念病院）　（神奈川県横浜市）



麻酔科認定病院番号：1098

臨床研修病院施設番号：030906
研修実施責任者：大角　真
専門研修指導医：大角　真　（麻酔、神経ブロック）
菊谷　健彦（麻酔、神経ブロック）
鈴木　新平（麻酔、小児麻酔）
特徴：複数の手術診療科のうち、整形外科症例が多く、高齢者の麻酔や各種神経ブロックを指導医のもと経験できます。
麻酔科管理症例数 2629 症例

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（2024年９月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募してください。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、電話、e-mail、郵送、FAXのいずれの方法でも可能です。

日本医科大学武蔵小杉病院麻酔科　川瀬創
211-8533 神奈川県川崎市中原区小杉町1-383
TEL 044-733-5181
E-mail: hajimekawase@nms.ac.jp

研修プログラム統括責任者　杉田慎二　E-mail：sugitashinji@nms.ac.jp

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、４年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の４つの資質を修得した医師となる。

１）十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
２）刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
３）医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

7. 専門研修方法

１）臨床現場での学習、２）臨床現場を離れた学習、３）自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得します。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を設定します。

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

毎日の症例カンファランスにおいて、担当患者に関する必要な情報のプレゼンテーションを確実に行うことができる。

専門研修２年目

１年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA３度の患者の周術期管理やASA１～２度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行

うことができる。また、心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。

学術集会において、指導医の指導のもと、自身の経験した症例に関する発表の準備とプレゼンテーションをすることができる。

専門研修 3 年目

全身状態の悪い ASA３度の患者の心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、集中治療、ペインクリニック、緩和ケアなど関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

学術集会において、指導医の指導のもと、自身の経験した症例や、臨床研究に関する発表の準備とプレゼンテーションをすることができる。

専門研修 4 年目

３年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

学術集会において発表した内容に関して、指導医の指導のもと、論文での発表の準備をすることができる。

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録 : 専攻医は毎研修年次末に、**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録します。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡されます。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック : 研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、**研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマット**によるフィードバックを行います。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させます。
- 専攻医に対する評価は、専門研修指導医のみではなく、他職種メディカルスタッフ（看護師、薬剤師、臨床工学技士）、初期研修医、学生を含めた多職種で行うことが望ましい。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修４年次の最終月に，**専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマット**をもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定します。

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件です。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われます。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。研修プログラムに問題があると判断される場合は時期を問わず、専攻医は研修プログラム管理委員会に報告することが可能です。報告は、直接、文書、電子メールいずれの方法でも可能です。報告を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者には、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務があります。研修プログラム統括管理者は、この評価および報告に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有します。

具体的な対策として、研修プログラム統括管理者は研修プログラム管理委員会を定期的に開催し、現況報告、プログラム内容およびスケジュールの点検や改善、専門研修指導医の研修会を計画・実行します。専門研修指導医は、専攻医に対して十分な指導ができるよう、学術集会や講習会へ参加を積極的に行い、最新の知識と技術の習得に務めます。

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行います。
- 出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれます。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して 2 年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれません。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して 2 年を越えてい

なければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなします。

- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められません。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認めます。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をします。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できます。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができます。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要があります。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認めます。

13. 労働環境の整備

研修プログラム統括責任者および研修実施責任者は、専攻医が心身とも健康に研修生活を送れるように労働環境を整える必要があります。具体的には、基本給与、宿直業務、勤務時間が適切であるかを本人および周囲からの聞き取りや病院管理部への問い合わせによって確認し、必要に応じて調整を行います。

また、健康上の理由、子供の養育、親の介護などの家庭の事情に配慮し、当直業務や時間外労働に制限のある専攻医に対しても適切な研修ができるような労働環境を整えています。

14. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療支援病院である横浜旭中央総合病院、東戸塚記念病院、海老名総合病院など幅広い研修連携施設が入っています。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻

酔診療のニーズを理解してください。専攻医の人数に対して指導医数が少なく指導体制が十分でない場合は、研修連携病院からの指導医の補充を検討します。